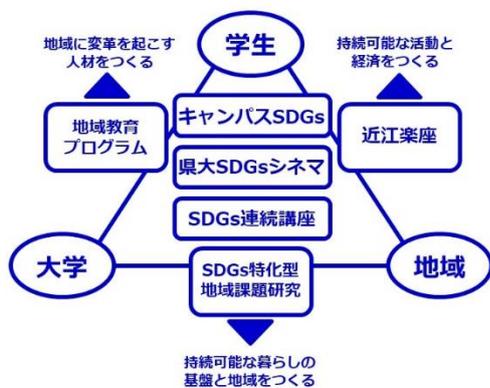


## 2-3 SDGs 地域化拠点の取組

### 2-3-1 SDGs に関する取組の全体像

地域貢献大学のリーディングモデルを目指している本学は、平成 30 年 6 月に「滋賀県立大学 SDGs 宣言」を行った。地域共生センターは、これまでの大学の取組や資源を生かし、SDGs が目指す持続可能な社会の実現に向け、共に学び、育ち、未来を切り拓く拠点となるための全学的取組の中心となる活動を行っている。



#### 滋賀県立大学 SDGs 宣言

- S 滋賀県立大学は「キャンパスは琵琶湖。テキストは人間。」をモットーに
- D 誰一人取り残さない持続可能な社会を目指し
- G グローバルな思考と実践をもって
- s 世界と地域の発展に貢献します

### 2-3-2 キャンパス SDGs びわ湖大会 2019

- 1 開催日時 令和元年 11 月 16 日 (土)
- 2 大会テーマ  
「地域から生まれる新しい価値」
- 3 参加者 412 名  
小学校 2 校、中学校 2 校、高等学校 11 校、大学・短期大学 16 校ほか企業や関係団体の皆さん
- 4 プログラムの内容

#### (1) オープニング・開会式

「地域デザイン A」のフィールドワークをきっかけに復活した長浜市鍛冶屋町の「鍛冶屋太閤踊り」の皆さんが、ヤマドリ羽根のかぶり物を被り、軽快なテンポの太鼓のリズムで練り歩き、会場を盛り上げていただいた。

本学理事長・学長の廣川能嗣の開催挨拶の後、SDGs の取組を先進的に推進する三日月滋賀県知事からも御挨拶をいただいた。

舞台には県内各地で製作された「ふるさと屏風」が数多く展示され、会場に花を添えた。



キャンパス SDGs びわ湖大会で展示したふるさと絵屏風

#### (2) 基調講演「SDGs をアクションしよう」講師：高野翔さん

講師の高野さんからは、「SDGs は私たちの生活に主体性を取り戻す世界的なきっかけで、その取組方法に制限はなく、だからこそ、身近な課題を発見し自分ゴトとして動き始めることが重要」との内容の講演があった。また、自らが故郷・福井で開催した「できるフェス」を紹介し、「社会は自分たちで変えられる。社会課題を自分ゴトにして主体的にアクションしよう」との力強いメッセージをいただいた。

講演およびパネルディスカッションでは、スマホのアプリ Sli.do(スライドウ)を活用した来場者参加型の意見交換を行い、活発な質疑応答がなされた。



高野翔さんの基調講演

### (3) パネルディスカッション

#### ○パネリスト

- 高野翔さん（国際協力機構(JICA)職員）
- 大日陽一郎さん（山科精器株式会社代表取締役社長）
- 中田佳恵さん（滋賀県総合企画部企画調整課長）
- 宮内芳維さん（鳥取大学・NPO ツナガルドボク中国）
- 川嶋凜海さん（滋賀県立大学近江楽座田の浦ファンクラブ学生サポートチーム）

#### ○モデレーター

- 森川 稔（滋賀県立大学特任准教授）

パネルディスカッションでは、企業、行政、大学、団体や地域で活動されているパネリスト5人が登壇し、それぞれの活動報告と課題の提示に基づき、SDGs を共通言語とした解決方法や協働の方法について議論や意見交換を行った。

### (4) ポスターセッション・動画コンテスト

SDGs の達成に向けて活動している学校や団体の実践例や、社会課題を解決するアイデアを表現するポスターや動画を募集し、優れた取組やアイデアを表彰した。

#### ○主な表彰の受賞者

- 知事賞 地域の人々とつくる「渋川 ESD ミュージアム」エコスクール渋川小学校
- 学長賞 「ごみを資源に！制服 to 制服でつくる未来の輪」守山高等学校チーム FE3C

### (5) 「SDGs の 17 目標でつながる」ワークショップ

ワークショップでは様々な分野、いろんな世代の方が一堂に会し、SDGs の達成につながる新たな学びやパートナーシップを育むことを目指して議論を行い、話し合った内容をホールで発表し、参加者全員で共有した。

### ○17 ワークショップのテーマ

- ①海外支援、②自然エネルギー、③古民家再生、④復興・防災まちづくり、⑤地域診断法、⑥地域文化を未来につなぐ、⑦エシカル消費とフェアトレード、⑧農業と地域ブランド、⑨琵琶湖の環境、⑩やまの健康、⑪SDGs を広める、⑫科学技術と SDGs、⑬健康と福祉を考える、⑭教育と SDGs、⑮多文化共生と地域社会、⑯コミュニティ再生・持続可能なまちづくり、⑰SDGs 入門（カードゲーム）



ワークショップの様子



ホールでの発表

### (6) 交流会

大会終了後に交流会を開催し、ワークショップのポスターを掲示して相互評価を行うなど、参加者同士の親交を深めた。

## 2-3-3 教育、研究、地域への波及

### 1 地域教育プログラムでの SDGs

前記 2-2 に記載の地域教育プログラムにおいて持続可能な社会づくりを担う人材の育成に取り組むとともに、特に SDGs に関しては、夏季集中講義「SDGs と滋賀のグローバルイノベーション～近江の暮らしとなりわい～」を環びわ湖大学・地域コンソーシアム単位互換科目として実施した。

講義には他大学を含む多数の学生が参加し、SDGs に親和性が高い滋賀の地の取組を事例にして持続可能な共生社会の実現への必要な知見、課題や実践のあり方について学んだ。(H30: 85 名、R1: 64 名)

○令和元年度「近江の暮らしとなりわい～SDGs と滋賀のグローバルイノベーション」のゲスト講師

- 田瀬和夫さん(SDG パートナース(有)代表取締役 CEO)
- 青山裕史さん(油藤商事(株)専務取締役)
- 川村美津子さん(NPO 法人つどい理事長)
- 大川哲郎さん((株)大川印刷代表取締役社長)
- 戸田直弘さん(琵琶湖の漁師)
- 堀彰男さん(魚のゆりかご水田農家)
- 井上慎也さん(KUMINO 工房代表)
- 大和田順子さん((一社)ロハス・ビジネス・アライアンス代表)
- 上田隼也さん((一社)SDGs Impact Laboratory 代表理事)
- 立命館大学 Sustainable Week 実行委員会の皆さん
- 滋賀県企画調整課、農政課、森林政策課の皆さん

### 2 SDGs 特化型地域課題研究

本学の多様な知的資源を生かし、地域課題の解決に向けた研究に積極的に取り組み、その成果を地域に還元することを目的に、多くの地域の方の協力を得て共同研究を実施した。

○ SDGs 特化型地域課題研究一覧 (H30・R1)

年度	研究課題の名称	対象地域
平成30年度	持続可能な地域と福祉に向けて、高齢化・人口減少が予想される地域における他出家族の生活サポート実態の解明	竜王町
年度	外国人の子供の保育・教育環境の改善	愛荘町

平成30年度	持続可能な地域創生のためのパートナーシップの研究：留学生による地域資源発掘プロジェクト	長浜市、近江八幡市、甲賀市、
	正課外教育による地域レベルでの教育文化醸成の試み	彦根市、長浜市
令和元年度	持続可能な地域のためのローカルガバナンス研究：留学生地域滞在プログラム	長浜市、近江八幡市、湖南市
	高校生に向けてのプレコンセプションヘルスケア体制の構築	滋賀県内
	児童虐待防止に寄与する日野町子ども家庭支援体制の構築	日野町

### 3 県大 SDGs シネマ

学生、教員、地域の方々が国内外の社会課題を基にした映画をともに鑑賞し、上映後の意見交換で感想や意見を共有することで、地域課題を自分ゴト化して、身近なアクションに取り組むきっかけを提供した。

○ SDGs シネマ上演作品一覧 (H30・R1)

年度	作品タイトル
平成30年度	コスタリカの奇跡 積極的平和国家のつくり方
	ディヴィッドとギリアン 響きあうふたり
	ザ・トゥルー・コスト ファストファッション真の代償
	0円キッチン
	おクジラさま ふたつの正義の物語
令和元年度	A FILM ABOUT COFFEE
	ナディアの誓い ON HER SHOULDERS
	最後の楽園コスタリカ オサ半島の守り人
	SONITA
	happy-しあわせを探すあなたへ
	1日1ドルで生活
	パワー・トゥ・ザ・ピープル
できる-セ・ポシブル	
バレンタイン一揆	



SDGs シネマ上映会の様子

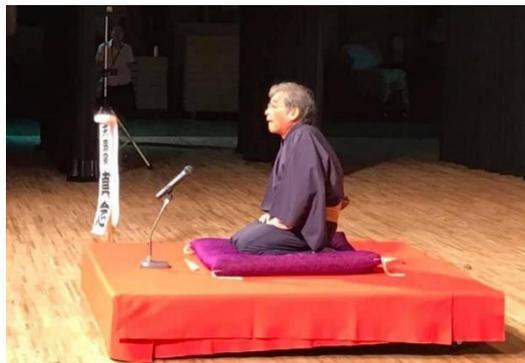
#### 4 SDGs 出前講座&落語

県内外の行政や教育機関、企業等からの要望を受けて、講演等を実施した。

##### ○ SDGs 出前講座&落語 出講先一覧 (H30・R1)

年度	区別	出講先
平成30年度	講演	滋賀 SDGs×イノベーションハブ
	講演	大阪教育大学付属高等学校
	講演	近畿環境パートナーシップオフィス
令和元年度	講演	滋賀県立草津東高等学校
	講演	山科精器株式会社
	報告	私立大学環境保全協議会
	講演 (落語)	近江八幡市教育委員会
	講演	滋賀県経済産業協会
	講演	聖泉大学 高島経済会

SDGs 落語では、普段なじみの薄いSDGsをわかりやすく理解し、自分ゴトにして考えるきっかけとして落語の笑いを通じた講演を天満家真念こと森川稔特任准教授(地域共生センター)が務め、高座から聴衆に語りかけた。



SDGs 落語の様子

#### 5 SDGs の視点を持って活躍する人材育成

令和元年度、「SDGs 活用型課題解決ワークショップ~滋賀のSDGsアクションを編集する」と題して、「SDGs 連続講座」を開催した。

これはSDGsの達成に向けて、地域の様々な活動をリードする担い手を育成するもので、参加者14名が、SDGsに関わる活動を互いにインタビューしあって「SDGs アクションブック」を取りまとめ、電子データを本学ホームページに掲載した。



SDGs アクションブック

#### 6 国連アカデミックインパクトへの参加

国連アカデミックインパクトは、平成21年に立ち上げられた国連と高等教育機関を結びつけるグローバルな取組である。

参加大学には「人権、識字能力、紛争解決」等に関する普遍的な10の原則のうち1つ以上の原則を積極的にサポートすることが求められる。

本学は、平成31年3月に国連アカデミックインパクトに参加し、次の原則をはじめとする全分野に取り組んでいる。

##### ○ 本学が重点的に取り組む原則

原則	内容
原則5	世界各国の高等教育制度において、能力を育成する。
原則9	持続可能性を推進する。
原則10	異文化間の対話や相互理解を促進し、不寛容を取り除く



アカデミックインパクトのロゴマーク

## 7 滋賀県立大学生生活協同組合とのSDGsに関する連携協定

令和2年2月5日、滋賀県立大学生生活協同組合と滋賀県立大学は、SDGsの推進に関する連携協定を締結した。

協定では生協ショップでのSDGsコーナーの設置、食品ロス削減への取組やキャンパスSDGsびわ湖大会への参加などを通じて、SDGs達成に係る取組にともに行うこととした。



SDGs コーナーオープンセレモニー